

テーマ名 鍋料理の材料の販売数量を AI で予測する

(スーパーマーケットの商品仕入数を誤差少なく予測する AI プログラム開発)

担当者 代表 C系 藪木登、E系 前原健二、C系 房冠深

(招へい講師 株式会社マムハートホールディングス 辻路也)

受入可能人数 5名～10名

実施予定場所 総合情報センター情報演習室B

実施内容

鍋料理に使う食材の仕入れ数について、品切れや売れ残りを防ぎ企業のサービス向上に貢献できるよう、最適な数量を予測するプログラムを開発し、そのシステムを企業に導入提案を行う。元になるデータは実際の企業から提供を受け、さらに気象庁から気温のデータを取得して気温を考慮できるようにする。講義は実際に企業の中で働くようなプロジェクトの形式をとりチームで作業分担して進める。AI 技術による課題解決の方法を学ぶ。

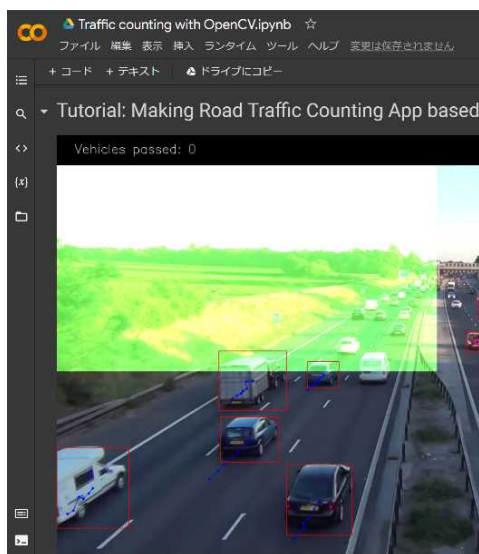
演習計画

- (1) AI がなぜ世の中で必要とされているか？ どういった使い道があるのか？ を理解
- (2) 実際に自分の手で AI を作って動かす (Deep Fake、車の交通量カウント)
- (3) AI ベンチャー企業の社長が投資家から資金を獲得するためのプレゼンを参考にする
- (4) 鍋料理の食材仕入れ数をうまく予測したいという課題に対して取り組みを開始する
- (5) 作業分担してチームで仕事をする方法を学ぶ (プロジェクトマネジメント)
- (6) e-learning 教材を利用して AI プログラム作成や Python 言語のプログラムを学ぶ

学べる事

・ python 言語、AI モデル作成の技能、プレゼン能力、プロジェクトマネジメント

(2) 車の交通量カウント



(4) 鍋食材の売れ行きと気温の関係

